

第4次総合計画 人口推計・人口ビジョンの見直し

総計策定委員会

資料5

R4.9.30

1 基本的な考え方

第4次総合計画策定以降、若年単身者の増加や、中高年齢層の転出超過が想定よりも顕著に見られたことから、当該傾向に基づいた補整を行うため、仮定値を以下のとおり変更

(1) 純移動率

- ・2015年から2020年にかけての男女別年齢5歳階級別人口コーホートの変化率を算出 … (A)
- ・(A) から社人研が公表している生残率の仮定値を減じる (= 死亡要因を除く) … (B)
- ・(B) をもとに、近年の中高年齢層の転出超過幅を踏まえて調整

(2) 合計特殊出生率

- ・第4次総合計画当初推計(以下、当初推計) : 社人研2013年推計で用いられている子ども女性比を使用
- ・第4次総合計画見直し推計(以下、見直し推計) : 社人研2017年推計で用いられている子ども女性比を使用
- ・国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)」のシナリオに沿った推計(以下、国長期ビジョン推計) : 2030年までに合計特殊出生率1.8、2040年までに2.07を達成すると仮定

2 人口推計結果(p.2-3のとおり)

- ・当初推計 : 2030年にピークを迎え、その後減少に転じる
- ・見直し推計 : 2025年に一旦ピークを迎えた後、一時的に減少、その後微増傾向が続く
- ・国長期ビジョン推計 : 2030年まで微増傾向が続いた後、転入超過が続き、合計特殊出生率が人口置換率2.07に達する
2040年以降は人口増が加速

3 見直し推計の結果要因

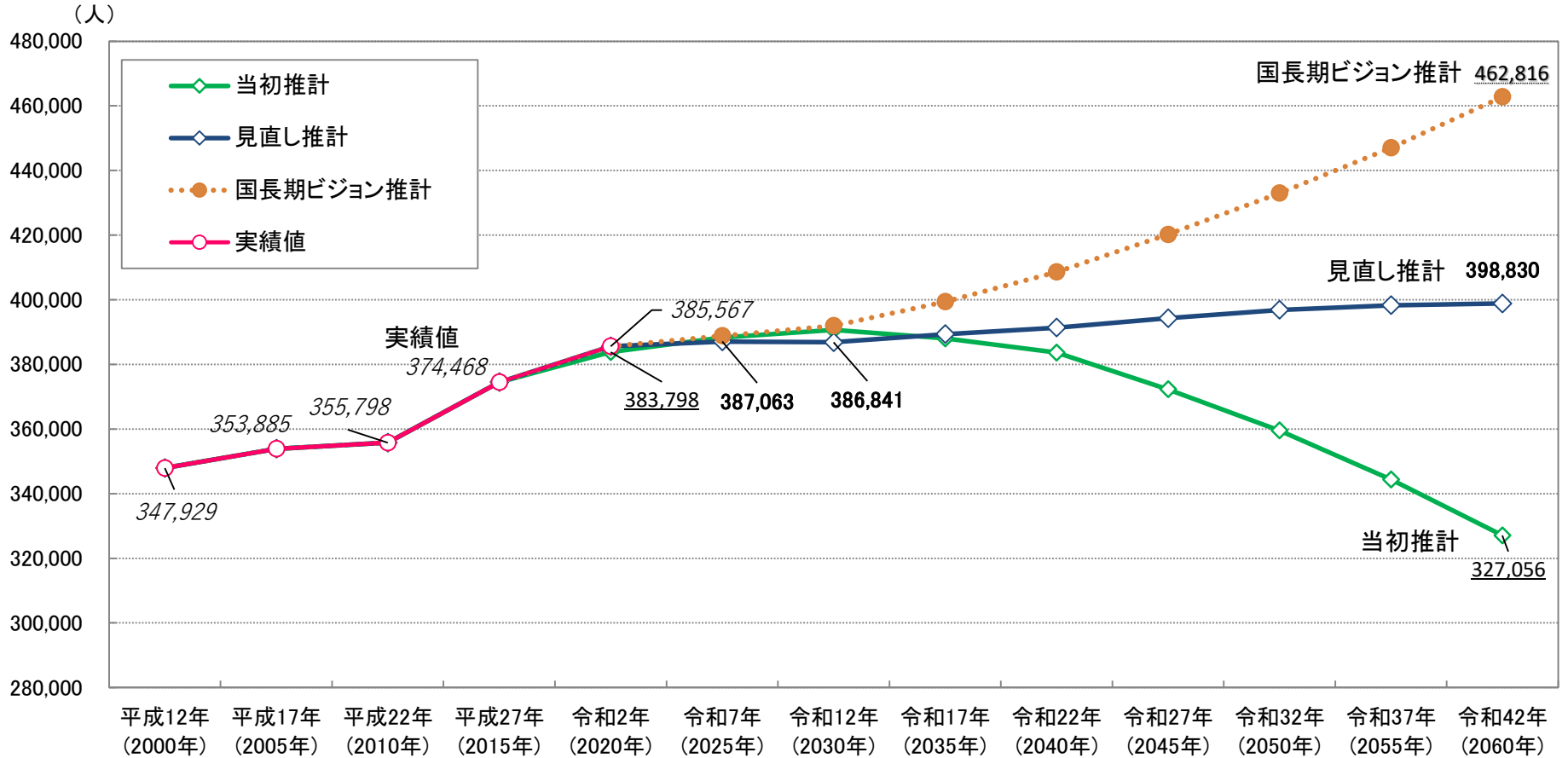
(1) 2025年に一旦のピークを迎える理由

- ・中高年齢層の転出超過が想定よりも見られた傾向に基づき、中高年齢層が多く転出する推計に補整
- ・団塊ジュニア層は人口が多いため、当該年齢層が転出率の高い年代(50~60代)になる2030年には人口は一旦減少する

(2) その後反転し、微増傾向となる理由

- ・若年女性の転入超過の傾向に基づき補整を行ったため、2035年以降、出生にも影響し、人口はプラスに転じる

第4次総合計画見直しに係る人口推計・人口ビジョン（案）



第4次総合計画見直しに係る人口推計・人口ビジョン（案）年齢3区分構成比

推計	年齢区分	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
当初推計	0～14歳	13.5	12.8	11.8	11.1	10.8	10.7	10.5	10.2	9.9
	15～64歳	62.3	62.5	62.2	60.5	57.8	56.0	54.7	54.3	53.9
	65歳以上	24.2	24.7	26.0	28.4	31.4	33.4	34.8	35.5	36.2
	(75歳以上)	12.6	15.1	15.7	15.7	16.6	18.7	21.5	23.0	23.6
見直し推計	0～14歳	13.5	13.8	13.5	12.8	12.6	12.8	12.9	13.0	13.2
	15～64歳	62.6	62.0	61.1	60.3	58.7	57.7	57.3	57.6	58.2
	65歳以上	23.8	24.2	25.4	26.9	28.7	29.5	29.8	29.4	28.7
	(75歳以上)	12.4	14.8	15.4	15.0	15.5	16.8	18.4	18.9	18.6
国長期ビジョン推計	0～14歳	13.5	14.2	14.7	15.0	15.8	16.6	17.3	17.7	18.3
	15～64歳	62.6	61.7	60.3	58.8	56.8	55.7	55.4	56.1	57.0
	65歳以上	23.8	24.1	25.1	26.2	27.5	27.7	27.3	26.2	24.7
	(75歳以上)	12.4	14.7	15.2	14.6	14.8	15.7	16.9	16.8	16.0

(%)